



新しい年を迎える準備をお手伝い

いわて生協バスボランティアで、仮設住宅の窓拭きを実施



1枚1枚丁寧に窓拭きをするバスボランティア参加者。

いわて生協が、2011年6月から開催しているバスボランティア。12月12日、88回目のバスボランティアが開催され、28人が参加。仮設住宅の窓拭きチームと、地域の憩いの場づくりのお手伝いチームの2手に分かれ、作業を行ないました。



再生の里 ヤルキタウン外観。

12月12日、いわて生協のバスボランティア参加者28人のうち18人が仮設住宅での窓拭きを行ないました。

これは、いわて生協が継続して開催している仮設住宅での「お茶っ子会」で、

「高齢者は高いところに手が届かないから、窓拭きをしてほしい」という要望が出され、それに応える形で立てられた企画です。事前に全戸に案内を配布、窓を磨いてほしくない方は、玄関に印をつけておくようお願いがされていました。

窓拭きを開始する前のオリエンテーションでは、いわて生協の職員から、窓拭き以外に何か要望がないかを入居者にお聞きするよう参加者へ呼び掛けがありました。今後どのようなボランティアを行なっていくか、入居者の声をもとに考えていくためです。参加者は、3～4人

ずつに分かれ、36戸の窓を1枚ずつ丁寧にふきあげていきました。

窓拭きは午前中で終了し、午後からは地域の憩いの場づくりを行なっているチームへ合流。12月15日に開店するコミュニティ広場「再生の里 ヤルキタウン」^{*}で球根植えを行ないました。バスボランティアの活動で何度か「ヤルキタウン」を訪れたことのある参加者は、オープン目前の様子に感慨深げでした。

^{*} NPO法人「再生の里 ヤルキタウン」が運営。6面で理事長の熊谷耕太郎さんのコメントを掲載しています。